

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
M3140205		臨床検査学 (Clinical Laboratory Science)					生命健康科学コース専門分野	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	3	2	医学部先進医療科学科	通年	月2,木2,金3,金4,金5	日本語		オムニバス					
担当教員	氏名 文室 知之、加藤 優子 E-mail fumuro@oita-u.ac.jp 内線 6253												
授業の概要	一般検査の業務とされる尿、髄液、糞便検体に含まれる各種成分を物理的、化学的方法で検出することにより、患者診療・治療に有用な検査情報を得る実践的手法を修得し、検体情報を扱う医療倫理を涵養する。尿沈渣検査法や脳脊髄液(髄液)の細胞数算定・細胞分類法について学ぶ。尿沈渣成分、髄液の細胞成分や寄生虫について標本や写真を観察し、それぞれの形態学的特徴を視覚的に理解する。また、静脈血採血法や検体採取方法(鼻咽頭ぬぐい液等)による基本的な手技の修得も行う。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	各種検体の測定法や臨床的意義を理解できる。												
目標2	健常と各疾患の検査結果の違いについて理解できる。												
目標3	尿沈渣の意義や疾患との関係性を説明できる。												
目標4	採血法や検体採取法の基本的手技について実施できる。												
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							3	1		1	3	2	
授業の内容													
1	1.2) 静脈血採血法												
2	3.4) 演習(学内実習)採血(静脈採血シミュレーター)												
3	5.6) 演習(学内実習)採血(静脈採血、検体処理)												
4	7.8) 演習(学内実習)検体採取方法(鼻咽頭ぬぐい液)												
5	9.10) 尿検査の試験紙法												
6	11.12) 尿沈渣1(標本作製、鏡検・染色法)正常細胞												
7	13.14) 尿沈渣2(標本作製、鏡検・染色法)異常細胞												
8	15.16) 尿沈渣3(上皮細胞類)												
9	17.18) 尿沈渣4(塩類、結晶)												
10	19.20) 尿沈渣5(微生物)												
11	21.22) 尿沈渣6(円柱類)												
12	23.24) 尿沈渣7(その他の成分)												
13	25.26) 演習(学内実習)(未知の検体を用いた尿沈渣検査)検鏡・スケッチ												
14	27.28) 演習(学内実習)(未知の検体を用いた尿沈渣検査)診断カンファレンス(検査結果の解釈と評価)												
15	29.30) 演習(学内実習)採血(静脈採血シミュレーター)												
16	31.32) 演習(学内実習)採血(静脈採血、検体処理)												
17	33.34) 尿沈渣検査の内部精度管理												
18	35.36) 尿定性検査と尿沈渣検査の総合評価												
19	37.38) 髄液検査、喀痰検査、体腔液検査(その他の一般検査)												
20	39.40) 糞便検査(便潜血反応)												
21	41.42) 寄生虫学(寄生虫の分類と疾患との関係)												
22	43.44) 演習(学内実習)(寄生虫標本の観察)原虫類、吸虫類、糸虫類(検査結果の解釈と評価)												
23	45.46) 演習(学内実習)(寄生虫標本の観察)線虫類、鉤頭虫類、衛生動物類(検査結果の解釈と評価)												
24													
25													
26													
27													
28													
29													
30													
ラーニング	A:知識の定着・確認	A:予習、レポート作成					工 夫 其 他 の	・一般検査学的の基礎を習得し、解析法を理解する。さらに実習を通してその原理を具象化する。 ・学生個々が考え、意見を述べる機会を頻繁に設ける。					
	B:意見の表現・交換	B:発問											
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												

授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	実習書の事前学習 (30 h)										
	事後学修	レポートの作成 (40 h)										
	想定時間合計	70										
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 三村 邦裕、宿谷 賢一 (編集) 『最新 臨床検査学講座 一般検査学』医歯薬出版株式会社、2016年、ISBN : 978-4-263-22367-3 平山謙二 『最新 臨床検査学講座 医動物学 第2版』医歯薬出版株式会社、2021年、ISBN : 978-4-263-22377-2 実習前に資料 (実習書) を配布する。 											
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 参考書は指定しない。 											
成績 評価 の 方法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	定期試験	75%										
	レポート	25%										
注意事項												
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	文室・加藤 (臨床検査技師)											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	本学医学部附属病院の臨床検査技師											
実務経験を いかした教 育内容	病院等において臨床検査技師および知識・技術に関する実務経験を生かし、実際の事例など取り入れながら講義を展開する。											